

# 佐賀市 12 歴史探訪

## 江藤新平終焉の地は？

江藤新平は江藤助右衛門の長男として佐賀城の北西、八戸村に生まれました。藩校弘道館で優れた成績で修め注目されましたが、家が貧しく苦学しました。

文久2(1862)年、激動期の政治情勢の中で脱藩上京して視野を広げたことで、明治維新期に佐賀藩を代表して重く用いられて活躍し、江戸への遷都を唱えたりしました。

明治になってからは、司法卿として日本の近代的な法律の整備を行い、また、参議として日本の政治運営に直接関わるなど、学識をもとに制度づくりを行ったり、新平の活躍は広く知られているところです。

明治7(1874)年、明治新政府と考え方が衝突し「佐賀の役」の指導的立場に推され政府軍と戦い、敗れました。

江藤新平の業績は、近年、佐賀でも高い評価があり、これを顕彰するために、銅像建設、生家跡の説明などがなされています。市民有志の方々に、佐賀城本丸跡が江藤新平の終焉の地であるとして「ああ無念の木柱」も設置されました。

しかし、佐賀城本丸で新平が処刑されたかどうかは、疑問が残る部分もありましたので、専門家の先生に調査をお願いしたところ、次のような資料があることを教えていただきました。



▲佐賀城跡全景(南から撮影)

### 鍋島文庫

#### 【内庫所 日記書抜】

明治7年4月13日(新暦)

佐賀暴動罪魁江藤新平・島团右衛門其外拾貳名

元二ノ御丸にて斬首 江藤・島には嘉瀬御仕置場にて梟首

※1 島团右衛門=島義勇のこと

※2 二ノ御丸=佐賀城二の丸

※3 梟首=さらし首

#### 【(個人)日誌】

旧二月(旧暦)

同廿六夜七ツ頃嶋团右衛門殿江藤新平殿老人充呼出

二ノ御丸之内にて無利に切殺 都合拾貳名

この資料から、終焉の地は本丸ではなく二の丸と判断されます。二の丸のどこであるかについては、今後の研究に期待したいと思います。



▲佐賀城本丸跡(旧赤松小学校)の南東の隅に立っていた「ああ無念」の木柱